



樂山市青少年代表団来市 ～5年ぶりの青少年交流～



中央写真は、8月22日交流夕食会での集合写真。前列中央の田中市長、稲葉議長をはさんで8人の青少年と2人の引率者。円内の写真は青少年代表団の皆さんです。



8月19日、中国樂山市から青少年代表団一行10名が成田空港に到着。猛暑が続く中、市川市に1週間滞在し様々な交流、見学を体験しました。(詳細は2ページを参照ください)

もくじ

- P2… 樂山市青少年代表団受入れ
- P3… 「やさしい日本語」/「日本語ボランティア養成講座」
- P4… 通訳翻訳業務のまとめ/イベント活動報告
- P5… イベント活動報告
- P6… イベント活動報告
- P7… イベント活動報告
- P8… IIA講演会異文化研究シリーズ/
新入会員氏名、在住外国人登録者数

編集・発行：市川市国際交流協会広報委員会
発行責任者：高梨治夫

〒272-0021

市川市八幡 2-4-8 3F

電話： 047 (332) 0100

ファックス：047 (332) 0101

URL: <http://www.iia21.jp>

eメール: info@iia21.jp

樂山市青少年代表団受入れ（都市交流部会）

暑いけど、充実の一週間…

コロナ禍で2019年のガーデナ市青少年代表団受入れ以来中断していた青少年交流が再開しました。

樂山市青少年代表団は、8人の高校生（四川省樂山第一中学校の15歳～16歳）と2人の引率者（樂山第一中学校国際部主任と樂山市友好都市友好協会科副科長）です。

樂山第一中学校は生徒数3,000人以上というマンモス校で、その中から選ばれた8人です。皆日本に関心があり、今回の訪問を心待ちにしていたとのこと。

一週間の滞在中、ホストファミリーの家庭に5泊、少年自然の家に1泊し、市内、県内、都内の各所を訪問し交流を深めました（主なスケジュールは下表参照）

日付	スケジュール
8/19	成田着、ホストファミリー対面式
/20	アイリンクタワー、郭沫若記念館、梨農園、動植物園、少年自然の家
/21	首都圏外郭放水路、国分高校
/22	鴨川シーワールド、交流夕食会
/23	中山法華経寺、市長・議長表敬訪問、市川昂高校、道の駅いちかわ
/24	東京スカイツリー、浅草、秋葉原、市川市民納涼花火大会
/25	成田山新勝寺、成田空港から帰国

ホストファミリーとの対面式では、初めはちょっと緊張した表情だった青少年たちも歓談していくうちにうちとけて会話がはずみました。

少年自然の家では、市川市の学生グループ（過去の派遣生たち）が企画したイベント（ゲーム、キャンプファイヤーなど）で若者同士の活発な交流がありました。

訪問した2つの高校（国分高校、市川昂高校）では、茶道、書道、華道などの日本文化を体験、吹奏楽部の演奏も楽しみました。

22日の交流夕食会では、樂山市の様子をビデオで紹介したのち、青少年が書道や武芸を披露してくれました。市川の学生グループも滞在中の様子を動画にまとめて発表してくれました。

都内見学は、スカイツリー、浅草、秋葉原と青少年が期待した個所をめぐり、買い物やアニメの聖地訪問などフルに動き回った一日となりました。

最後の夜は「市川市民納涼花火大会」に参加、沢山の人に驚きながらも間近で打ち上げられる花火の迫力を十分楽しみました。

今回の受け入れでは、6つの家庭がホストファミリーとして手をあげていただいたことが好結果の一因であると思います。短期間とは

いえ、日本の家庭に泊り生活をともにすることは、日本の生活習慣、文化を知り、日本という国の理解に繋がるのではないのでしょうか。

ホストファミリーの皆様には改めて感謝申し上げます。また、事後アンケートに答えていただきましたので主なものを紹介いたします（別表1）

また、市川の学生グループの皆さんが率先して協力の意思を示していただき、少年自然の家でのイベント企画・実施、交流夕食会での発表、都内見学での同行などで活躍していただきました。年代が近い世代の参加が受け入れ実施の大きな力となったと思います。ありがとうございました。

一週間の滞在は猛暑の中でしたが、暑さにも負けず事故やケガもなく予定のスケジュールを消化することができました。

最後に樂山市青少年代表団の皆さんが帰国後にSNS（WeChatなどの中国のネット上でのコミュニケーションツール）でチャット（会話）した内容を抜粋して紹介します（別表2）

彼らがこの一週間、楽しく印象に残る日々を過ごしてくれたようで、受け入れ側として大変嬉しく、安堵しました。（山本 怜）



別表1（単位はホストファミリーの数）

今回受け入れに携わってみて良かったと思うか？	とてもそう思う 5	そう思う 1
青少年とコミュニケーションをとることができたと思うか？	とてもそう思う 4	そう思う 2
受け入れを通じて中国や樂山市のことを学ぶことができたと思うか？	とてもそう思う 2	そう思う 4
今後も受け入れを行ってみたいと思うか？	とてもそう思う 1	そう思う 5

※他の回答選択肢

・あまりそう思わない・全くそう思わない
はいずれの質問でも0(ゼロ)でした

別表2

- ・日本の方々には豊富多彩なスケジュールを組み立ててくれて充実した日々を過ごした
- ・町はきれだし、町づくりは素敵、果物もおいしかった
- ・市川市の町づくりは良くできていてとても参考になると思う
- ・東アジアの文化は似ている所が多いから交流が必要なんだ
- ・今でも時々花火大会のことを思い出し、きれいすぎて夢みたい
- ・素晴らしいホストファミリーに出会ったね
- ・来年日本人学生が樂山に来るのが楽しみ
- ・私達も誠心誠意な態度でお世話したい
- ・また日本に行きたいな
- ・大学受験が終わったらまた日本に行きたい
- ・チャンスがあれば日本に留学したい

「やさしい日本語」講座に参加して (通訳翻訳部会、市民交流部会)

「あだ名・免震・自治会…これらの単語を日本語があまり理解できない外国人にそれぞれ3つの文章で説明してみましょう」9月23日に開催されたやさしい日本語講座は、25名の参加者が真剣に講義に耳を傾け、グループワークでは冒頭のような「3文クッキング」のお題に、そこかしこで苦悶の声や、笑いが沸き起こる熱のこもったイベントとなりました。

第一部は、やさしい日本語の基礎知識。印象深かったのは1995年の阪神淡路大震災でテレビに流れた漢字だらけの災害情報です。それが2011年の東日本大震災では画面右上に「つなみ、にげて」

の大きな文字。時代の変化を実感しました。第二部は、単語や市のホームページの文章をやさしい日本語に置き換えるグループワーク。お題の難易度は徐々に上がり、皆で少しずつコツを掴んでいきました。そして第三部は、日本語がまだあまり理解できない日本語検定N4レベルの外国人留学生達に、やさしい日本語に書き換えたポスターを説明して理解させる、という実践編でした。

私達のグループは、煮る・蒸す・炒めるの説明に四苦八苦。すると、留学生から救いの一言「ワタシ、日高屋デ、バイト、シテマス。」「おお、じゃあ、野菜炒め、分かる

よね?」「ハイ、ワカリマス!」…やっと糸口を掴めた瞬間は感激ひとしおでした。

そして何よりも、講師の市川日本語学院専任講師 磯部美奈さんの語りとの確なアドバイスが素晴らしかったです。「やさしい日本語とは、日本語が分からない外国人への配慮の一つです」と磯部先生が繰り返しておっしゃっていたことが実践編で腑に落ちました。多言語社会に必要なのは翻訳アプリだけではない、人間にしかない「配慮力」こそが最も必要なツールなのだと思います。(水井 礼子)



真剣にメモを取る人も…



外国人留学生登場!



「分かりますか?」「…ワカリマセン」

「日本語ボランティア養成講座」今年度も11月から開催 (日本語教室部会)

外国籍の市川市民は2万人を超え、今や市民の24人に1人です。市内の日本語教室で日本語を学ぶ人々も増えています。市川市が主催する「日本語ボランティア養成講座」は、初めて日本語学習支援をする人が日本語を教えるために必要な知識や技能を学ぶ講座です。2017年以降、コロナ禍の3年間の中断を除いて毎年開催されています。これまでの受講者の多くが、市川市内の地域日本語教室で活動しています。今年度は11月から3月まで13回にわたり行徳公民館で開催されます。IIA日本語教室部会は市川市から業務委託を受けて、この講座の運営実務を担って

います。さらに受講者募集期間に合わせて、9月21日と10月5日に事前説明会を開催し、講座の内容や市川市の日本語教室の活動状況をお話ししました。参加者は2回合わせて35名でした。また9月中旬から10月末まで、本八幡の国際交流ラウンジで日本語教室紹介パネル展示を行い、各教室の活動内容や使用教材などを展示しました。(写真)

なお、すでに市川市以外の地域日本語教室で日本語学習支援の経験のある方や、専門学校等の日本語教師養成講座を修了された方であれば、市川市のボランティア養成講座を受講しなくても日本語教

室の活動に参加できると思います。まずはお近くの日本語教室を見学されてはいかがでしょうか。市川市の日本語教室リストは、IIAホームページのトップ右下にある「ボランティア日本語教室リスト」をクリックしてご覧ください。(金子 隆一)



通訳翻訳業務のまとめ (通訳翻訳部会)

私たちは、市川市や市内在住外国人から依頼された通訳・翻訳を行っています。英語、中国語、ドイツ語、スペイン語グループは技術アップのため定期的な勉強会を行っています。(水井 礼子)

2024年6月～9月の活動実績

		内 容	依頼元
通訳	日⇄中国語	楽山市青少年代表団受入事業に係る通訳(夕食会テーブル通訳、随行通訳)	国際交流課
翻訳	日→中国語	楽山市青少年代表団受入事業に係る翻訳(パンフレット、挨拶文など)	国際交流課、他
	日→仏語	日仏自治体交流会議用 自治体紹介シート	国際交流課

通訳担当者の体験記(楽山市青少年代表団受入事業に係る通訳:中国語)

私は8月19日～25日の日程で来日した楽山市青少年代表団の8月21日の行程にボランティア通訳として同行しました。訪問先は、①首都圏外郭放水路と②県立国分高校の2カ所です。①の見学と②の歓迎式典における校長挨拶までは順調に進みましたが、最後に思わぬ難題

に直面しました。それは、②のクラブ活動参観・交流の一環として行われた華道部の「中国人高校生の生け花体験」です。生け花体験の前に、華道部の師範が「華道の神髄」や「生け花における陰陽」について説明されたのですが、私には華道に関する深い知識がな

く、中国側通訳の助けを借りて何とかその場を切り抜けました。今回の体験を通じて、訪問先での交流内容に関する事前の情報収集や専門性の高い日本語の適切な訳語の下調べがいかに重要かを改めて痛感しました。(石野田 透)

イベント活動報告

外国人トークサロン

(市民交流部会)

6月29日の午後。久しぶりの「外国人トークサロン」です。

市民交流部会としては、今年度最初のイベントです。今回は主に最近IIAに加入された新会員のウェルカムパーティーということで計画しました。時期はちょうど七夕。ラウンジの飾りつけも大きな笹の枝に、いっぱい七夕短冊。市川日本語学院の留学生さんたちや、八幡と行徳の日本語教室の子どもたちの願い事がにぎやかに飾られていました。

まず、スリランカ人クサカさんの司会で自己紹介。インドネシア、

ネパール、メキシコ、中国とにぎやかにそれぞれの日本での体験が語られました。

七夕の由来を紙芝居で学んだあとは、お待ちかね!日本風スナックタイム!お団子や巻きずしなどが大人気。もちろんピザもたくさん食べて、さあ、ダンスタイムです。外国人委員会時代からの伝統のダンスは台湾のアミチャチャ。なかなかハードな振り付けに、みんな大笑い。

楽しいひと時を一緒に過ごし、再会を約束してお開きとなりました。(村井 美和)



全体会

(通訳翻訳部会)

9月1日、ノロノロ台風10号で不安定な天気の中、通訳部会の年間行事「全体会」を開催しました。新入会員5名(内2名はスペイン語グループの外国人メンバー)や、都市交流部会や千葉県日独協会など部会外からの参加もあり全28名

の活気に溢れた会でした。

事業報告・計画説明では、新メンバーには部会の概要をプロジェクターでわかりやすく示し、現メンバーにも部会の目標や現状をあらためて認識してもらうことに注力しました。ハイライトは、7月に通翻

メンバー 36名から回収した「アンケート」に対する意見交換です。その中で「外国人の子供と一緒に過ごして日本語と触れ合う時間やグループを作ることはできないか」「市内在住外国人へのアンケートをやるのはどうか、でもどうやって」

などの新しい活動への提言も出ました。また、新入会員の「市川に長く住んでいるがIIAの存在を最近まで知らなかった」との発言を受け、知名度アップの方策についても意見が飛び交いました。全体会

で出た意見はアンケート結果と併せて今後の運営委員会で検討し、よりよい活動につなげていこうと思います。

最後に、メンバー交流の時間が短くなってしまったので来年はたっ

ぷり確保しようと思います。ご参加下さった皆様、準備に尽力された運営委員の皆様、ありがとうございました。(水井 礼子)



全員で自己紹介



お菓子を食べながら交流

ドイツデー2024

(都市交流部会)

毎年恒例の市川市主催のドイツの食、音楽、文化を楽しむイベントである「いちかわドイツデー2024」が昨年同様にニッケコルトンプラザの中庭のコルトン広場で10月5日に開催されました。

残念ながら雨天になりましたが、ドイツのイベントにちなんでドイツソーセージ、ビール、パン、雑貨、ワインの出店テナントが店を連なる中、市川市国際交流協会はPRブースを設置、また、旧ローゼンハイム市委員会メンバーが中心となり、専門の講師を招いてガラス製パー

ツを使用した装飾品を作成するワークショップを開催しました。当日のチケットは全て完売し約108組の方がワークショップを体験しました。(廣田 祐策)



日本文化研修講演会「日本庭園いちかわ -和やかに庭を愛でる-」

(都市交流部会)

秋晴れの9月28日、国際交流ラウンジで平川金造さん(日本庭園設計士)を講師にスライドショー座談会形式で研修を行いました。

イッシー・レ・ムリノー市フォ地区に於て日本庭園の竣工式が2016年3月に華々しく執り行われました。

3年の月日をかけて完成、フランス国で31番目の日本庭園に認定されました。当時の市長サンティニ氏の構想は、日本庭園をフォ地区に作る事、憩いの場にする事、エコロジーである事、車椅子対応バリアフリーにする事、錦鯉が泳ぐ池がある事でした。

それを受けて日本庭園は、水、石庭、休憩の3区画の構成にしました。日本から灯籠を三基と手水鉢のみを運び、その他の部材は現地調達が出来ました。井戸を掘り、日本風景の・谷川・里山・洲浜にエコ循環浄化システムの水路を施しました。手水鉢は水飲み場なので柄杓を置きフォ地区の水道を通しました。散策路はバリアフリーにしました。四阿(あずまや)は大勢の人が利用出来る様に広くし、日射しを避け雨をしのげる処で松や花木の景色を眺めて休める様に建てました。隣接の境界はエコ緑化

の生垣にしました。正門には、某市川市民の揮毫の「市川庭園」の額を置き、記念樹の桜の木も正面に植えました。現在、市川庭園は多くの市民の憩いの場となっています。

質疑応答では質問が多岐にわたり、講師は丁寧に分かり易く説明しました。拝聴して感じたのは、技術の資質が高いだけでなく、作庭に向き合う作り手が優しい事、ヨーロッパの植生を大切にしている事。そして、日本伝統の正統性を無理なく損なわずに日本の自然を表現した事です。なによりも、

両市総力で成し遂げた素晴らしい友好都市交流の証なのです。竣工式の前後1週間は、両市の市民の皆様が文化交流を盛況に行いました。日本庭園についての講演会、太極拳のオープニング演技、日本酒の試飲会、茶道の薄茶席のおもてなし、生け花展示、絵手紙、折り紙、書道のワークショップです。IIA会員のお土産は手作りという事もあり大層に喜ばれました。

庭園の中で講話を聴いているようで、心の隙間にゆとりを取り戻

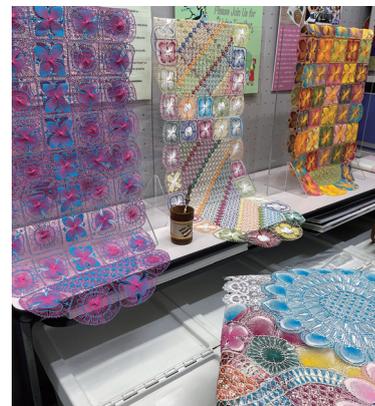
す大切さに気付かされました。イッシー・レ・ムリノー市へ、再び訪問したいと切に思いました。

(佐藤 和子)



街回遊展in八幡

9月28日、国際交流ラウンジは日本文化研修講演会と並行して回遊展スタンプラリー会場として多くの来場者（講演会参加者を含み131名）を迎えました。見学者の皆さんは、講演に加えてパラグアイ伝統のレース編み「ニャンドゥティ」や市川の日本語教室を紹介する展示を見学、お時間のある方にはパラグアイのお茶やお菓子も楽しんでいただきました。



小さな旅 ～深川江戸資料館と清澄庭園を満喫～

(バディーズ)

10月4日、バディーズのメンバーは小さな旅に出かけました。当日、出発の30分前に急に雨が降り始めましたが、家を出る頃には幸運にも止んでいました。JR組と地下鉄組は、スムーズに清澄白河駅に集合しました。

深川江戸資料館に向かう途中、天気予報通り10月とは思えない30度に達し、大変蒸し暑くなりました。深川江戸資料館は初訪問でしたが、昔の江戸の街並みには中国の古い町を感じさせる部分もありました。特に印象的だったのは、昔の月見団子が8センチもあり、飾った後に金づちで砕いて皆で分け合って食べることでした。また、その時代、キセルでタバコを吸う姿でその人の社会的地位がわかったということを知り、当時の人々が日常の中で常に社会的階層を意識していたことに驚かされました。

その後、公園で楽しんだランチタイムでは、バディーズらしく差し入れが豊富で、皆お腹いっぱいになりました。清澄庭園の散策では日本庭園の美しさに感動し、巧みに設計された庭園が自然と調和している様子に心を打たれました。庭園の中を歩く私たちはまるで絵の中にいるかのようで、自然に囲まれることで心が穏やかになりました。

清澄庭園の出口で解散となり、中国組はその後、2時間にわたってコーヒー店で自由におしゃべりを楽しみ、リラックスした時間を過ごしました。夜には、LINEで素敵な写真もたくさんいただきました。

雨にも降られず、素晴らしい思い出ができた今回の旅に、バディーズの皆さんと過ごせたことに心から感謝しています。(李 玲名)



これ以上バスツアーに絶好の天気はない10月13日8時30分、10カ国・地域（ベトナム、ネパール、パキスタン、台湾、中国、ドイツ、ハンガリー、英国、フランス、日本）の25人を乗せ、スツとした女性ドライバー運転の大型バスは、筑波山に向かって市川をあとにしました。

常磐道合流付近から3連休の渋滞に巻き込まれましたが、車内ではアイスブレイキングの自己紹介が始まり、出身地、国の紹介などで仲間たちは徐々に和やかに。そのうち渋滞はなくなり、時間通りに到着かと思いきや、あと数キロのつづら折れの、バス同士のすれ違いがままならないほどの細道（写真1）が大変なことに。あまりの渋滞にレストラン手前でバスを降り歩くことに。

2時間半遅れでレストランに到着。ランチは豪華で美味。純日本風の食事に外国の友人たちも舌鼓（写真2）。この辺からまた皆元気になり、さあケーブルカーで標高877mの筑波山山頂へ。この駅に行くのに150段の石段を上るとい

ことが発覚（写真3）。なので麓の金張り千手観音、筑波山神社組と山頂組に分かれました。

ケーブルカーは1925年竣工、箱根に次ぎ古いという年代物。でも快適に8分で到着。絶景にして心地よい風。遠くにかすむ霞ヶ浦を展望しながらパチリ（写真4）。みな満身の笑みです。富士山が見えなくて残念、市川はどこに見えるのなどと景色を楽しみながらも、下で待つ仲間のためにも、頂上滞在時間は短く切り上げ、長蛇の列

に並び3台目のケーブルで下山。

15時30分帰途に。帰りのバスでは、参加した人たちが行ったことがある山、自慢できる山、登山を勧めたい山を紹介。中ぐらいの渋滞の中、市川に18時30分に到着。参加した皆さんは「楽しかったー、また機会があったら参加させて」などなどと名残惜しそうに帰っていききました。このツアーを企画、実行してくださった山口さんをはじめ皆様に大感謝です。ありがとう。

（篠原 剛）



写真1:細道



写真2:ランチ



写真3:階段



写真4:山頂

進路ガイダンス2024 市川会場 を終えて

(IIA協力)

10月12日市川教育会館多目的ホールで「日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス2024 in CHIBA市川会場」を行いました。

2012年より13年間に、生徒・保護者600人以上、高校教員、通訳、学生、ボランティアなど600人以上が参加しました。

今年は中国、ネパール、インド、ベトナム、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ケニア8か国の中学3年生及び既卒者と保護者が高校入試について、説明を聴きました。また浦安、市川、船橋、松戸の高校9校の先生から各校の特色や外国人生徒に対する特別なサポートなど紹介がありました。このガイダンスに参加した高校生や大学生

さらに社会人になった先輩から受験へのアドバイスや母国語によるエールをおくられ、受験に対する学習方法や心構えを学ぶことができたと思います。

年々、幅広い地域から参加する生徒が増え、益々サポートが必要になってきていますが対応が追いついていません。

昨年マークシート式の解答が加わり、今年はインターネット出

願が必須になりました。ほとんどが日本語の説明でしたが、英語、中国語、ヒンディー語の通訳に頑張ってもらったので外国の生徒達にもよく理解できたと思います。

最後まであきらめず、目標に向かって歩んでほしいとガイダンスに関わるボランティア一同願っています。

IIAの皆様にはご協力頂き、感謝申し上げます。（宮澤 美子）



IIA 講演会異文化研究シリーズ (IIA 自主事業)

第10回 「ユダヤ人とパレスチナ～パレスチナ問題を歴史から考える～」

2023年10月のハマスのイスラエル攻撃に端を発したパレスチナ問題は、その後も混迷を深め双方（特にパレスチナ側）に多くの犠牲者が出ています。今回の講演では、この問題を歴史から考え、ユダヤ人とパレスチナの関係を解説するものです。

まず基礎知識として、パレスチナとは地名でありこの戦争は国家間、宗教間、民族間の対立ではなく土地をめぐる争いであること、ユダヤ人という民族は存在せずユダヤ教を信仰する人たちのこと、同様にパレスチナ人も人種的概念がなくアラビア語とアラビア文化を共有する人たちであることが述べられました。

この土地をめぐるのは紀元前からの長い歴史がありますが、本講演では19世紀末からのパレスチナについて解説されました。その19世紀、ヨーロッパでは国家と民族の一体化、ナショナリズムによる国民国家が成立、キリスト教国家に同化しないユダヤ人への迫害が始まりました。そこで生まれたのが、先祖が住んでいたパレスチナにユダ

ヤの国を作るシオニズム運動でした。特にロシアのボグラム（ユダヤ人への集団的迫害）により多くのユダヤ人がパレスチナに移住したのでした。

その後第一次世界大戦でパレスチナはイギリスの委任統治領、第二次世界大戦後にイギリスの手を離れ国連に委ねられました。この間ナチスドイツによるホロコーストで多くのユダヤ人が虐殺され、また多くがパレスチナへ移住しました。

1947年国連は、パレスチナ分割決議案を決議、土地の半分以上がユダヤ人に割り当てられ、1948年、建国の父ダヴィド・ベン＝グリオンによってイスラエルが建国しました。しかしアラブ人にとっては到底受け入れられない措置に以降第一次～第四次中東戦争が勃発し、ユダヤ対アラブの争いが続くことになりました。その間PLO（パレスチナ解放機構）の対抗勢力として出てきたのがハマスでした。

1993年イスラエルのラビン首相とPLOのアラファト議長が互いを認める相互合意に達したオスロ合意が米国の仲介により成立しました

- 開催日
8月24日
- 開催場所
国際交流ラウンジ
- 講師
新谷 卓氏
(立教大学・宇都宮共和大学講師)
- 参加者
会場 18名、オンライン 2名

が、多くの課題が先送りされ対立は今も解消していません。

このように、パレスチナ問題は長い歴史の中で根深い対立が存在し国連や欧米先進国がその解決に力を発揮できない現状ではまだまだ続くものとの感想を得ました。

(山本 怜)



写真出典：jiji.com

新入会員氏名 (2024年7月～2024年10月)

氏名(敬称略)、フリガナ、参加を希望する部会(部会等の略号/都:都市交流、市:市民交流、日:日本語教室、通:通訳翻訳)、趣味特技

富岡 瑠美 (トミオカ ルミ) 市
料理

小川実穂子 (オガワ ミホコ) 日

相撲、落語、絵画鑑賞、下町散歩

入間川祥子 (イリマガワ ナカコ) 日
子どもたちに接すること

宮崎 裕 (ミヤザキ ヒロシ) 日

観劇・旅行・温泉・デイキャンプ・歌

王 霽月 (オウ サイゲツ) 都・市・日・通 (中国語)
超ミニサイズのブロックで建物を組み立てること。

岡本 稜太 (オカモト リョウタ) 市・日

釣り・キャンプ・合気道・読書・卓球

Weatherly Kimberly Anne (ウェザリー キンバリー アン) 市
ブランケットを編むこと・刺し子

金 美娟 (キン ミヨン) 通 (韓国語)

韓国料理

市川市在住外国人登録者数及び上位 10 か国の人数 2024 年 10 月 1 日現在 () 内は昨年同月数

① 中国	6,762 (6,437)	② ベトナム	2,462 (2,073)	③ ネパール	2,395 (1,973)	④ フィリピン	1,702 (1,585)	⑤ 韓国	1,375 (1,367)
⑥ ミャンマー	969 (631)	⑦ インド	730 (688)	⑧ スリランカ	688 (514)	⑨ インドネシア	563 (374)	⑩ タイ	519 (488)

総数113か国 21,259人(112か国19,030人) 市川市総人口 494,824人(492,835人)(市川市総人口は2024年及び2023年9月30日現在)

(1～2 ページ) 樂山市の青少年代表団が市川にきました

中国の樂山市と市川市は友好都市（町と町が友だちになること）です。樂山市の高校生8人が8月に市川にきました。樂山の高校生たちは日本人の家庭にとまりました。「少年自然の家」では市川の学生と一っしょにゲームやキャンプファイヤーをしました。市川市の国分高校と市川昂高校に行きました。スカイツリーなどの東京の観光をしました。市川の花火大会も楽しみました。

(3 ページ) 「やさしい日本語」を学びました

「やさしい日本語」はわかりやすく（易しい）相手の人に親切な（優しい）日本語です。9月23日に25人が集まって「やさしい日本語」を学びました。外国から来た8人の留学生にも来てもらいました。8人は市川日本語学院で日本語を勉強しています。「やさしい日本語」で書いたポスターを留学生に読んでもらいました。

(4 ページ) 外国人トークサロンがありました

6月29日に国際交流ラウンジで「外国人トークサロン」がありました。スリランカ インドネシア ネパール メキシコ 中国から来た人たちが集まりました。七夕のお祭りの飾りを見てお祭りのことを学びました。そのあとみんなで日本のお菓子やピザを食べました。台湾のダンスもしました。

(6 ページ) 深川江戸資料館と清澄庭園に行きました

バディーズ(Buddies)では外国から来た女の人と日本人の女の人が一っしょにな

って いろいろな ことを しています。10月 4日に みんなで 東京の 深川江戸
資料館と 清澄庭園に 行きました。深川江戸資料館では 昔の 東京（江戸）の ま
ちや 生活を 知ることができました。清澄庭園は とても 美しい 日本庭園（日本
の 古い 大きな 庭）でした。

(7 ページ) バスで 筑波山に 行きました

IVIS（市川ボランティア通訳の会）の みんなは 10月 13日に バスで 筑波山に
行きました。10の 国から 25人が 集まりました。ベトナム ネパール パキスタン
台湾 中国 ドイツ ハンガリー イギリス フランス 日本の みんなです。

レストランで 食事をしたあと ケブルカーで 筑波山の 山頂（山の 一番 上）に
行きました。

(7 ページ) 外国から 来た 中学生に 高校の ことを 話しました

10月 12日に 市川教育会館で 「進路 ガイダンス 2024」がありました。外国か
ら 来た 中学生が 高校に 行くのを 手伝うためです。中国 ネパール インド ベト
ナム マレーシア フィリピン スリランカ ケニアから 来た 中学3年生と その親が
集まりました。千葉県の 高校の 先生が 入学試験（高校に 入るための テスト）
の やり方や 高校生の 生活について 話しました。外国から 来て 千葉県の 高校
で 勉強した 人たちが 自分のことを 話しました。この ガイダンスに 来た
中学生たちが 自分の 行きたい 高校に 入ることが できると いいと 思います。
